

## 4月のHUGだより

情報提供者：やましろ小児科 山城 武夫

### 今月のテーマ 小児アレルギー

今年度も月テーマを決めて、『HUGだより』をお届けいたします。

新型コロナウイルス感染症で世界中が恐怖に怯えています。色々な情報を整理して感染予防を実行してください。

さて、今月のテーマは小児のアレルギー疾患ですが、コロナに隠れて花粉症もやや薄れた感じを受けます。

アレルギー疾患は「アトピー性皮膚炎」「気管支喘息」「スギ花粉を代表とする花粉症」「食物アレルギー」等があります。

また、アレルギー素因のこどもは図のようにアレルギーが行進するという説がありますので、どこかでアレルギーを体内へ入るのをブロックするように、日常生活で注意をしましょう。

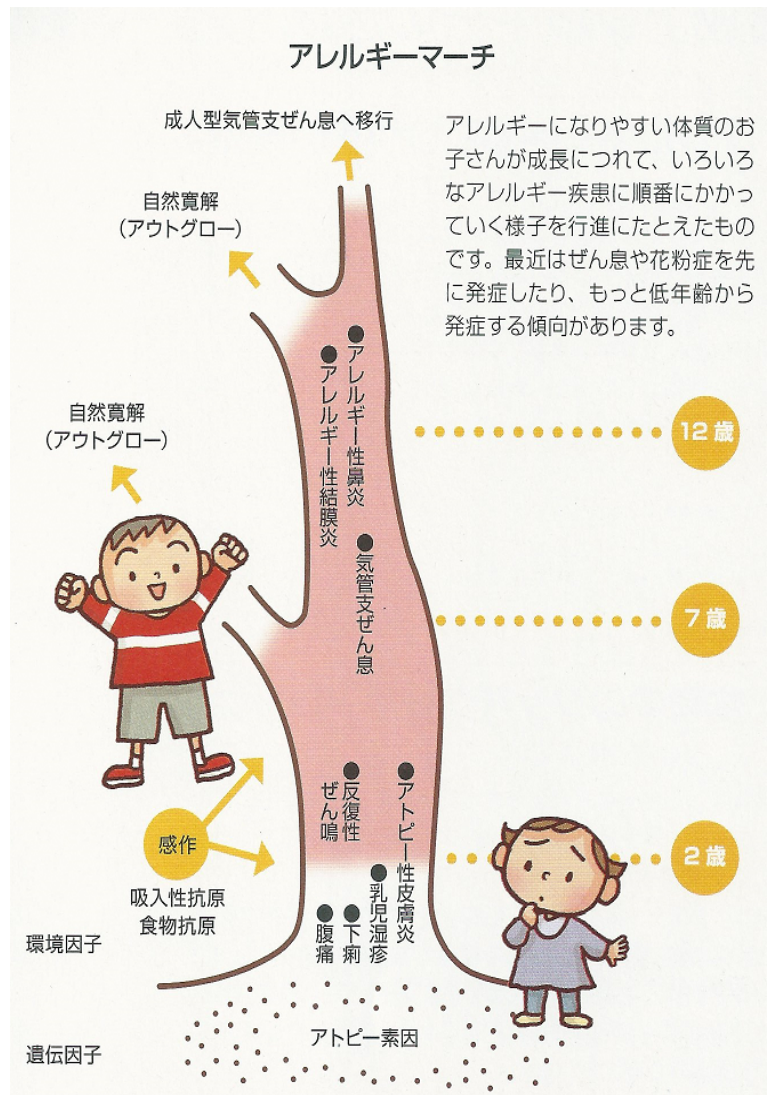
「アトピー性皮膚炎」については食事性のものが多いようですが、何れにせよ赤ちゃんの皮膚はデリケートです、皮膚からのアレルギーの侵入を防ぐように、清潔、保湿等スキンケアが大切です。「気管支喘息」では吸入アレルギーの検索とステロイドの吸入療法が基本的な治療となります。

「花粉症」は鼻炎、結膜炎、咳を伴ったり、皮膚の掻痒があったりします。花粉の飛来の子供により症状が強くなります。

「食物アレルギー」では呼吸器、皮膚、消化器など複数の臓器に症状を起こします。これをアナフィラキシー反応と呼びます。特に血圧低下を伴う循環器症状が現れるものをアナフィラキシーショックと呼び、命に係わる出来事となります。何れにせよ、処方されたお薬を正しく使用すること、また、アナフィラキシーを起こす可能性で予防に処方された注射の使用方法を普段から練習しておくことが大切です。

花粉症と口腔アレルギーは密接な関係があります。例えば、スギ、ヒノキの花粉症はトマトを食べると口の中にしびれや違和感を感じる人がいます。

複雑なアレルギーと上手く付き合って行きましょう。



アレルギーになりやすい体質のお子さんが成長につれて、いろいろなアレルギー疾患に順番にかかっていく様子を行進にたとえたものです。最近はずん息や花粉症を先に発症したり、もっと低年齢から発症する傾向があります。